

国際言語文化研究科 全学向け授業案内

2005年度後期全学向け「外国語特別研修コース」及び 「セミナー」について

国際言語文化研究科全学向け授業は「外国語特別研修コース」及び「セミナー」からなっています。「外国語特別研修コース」はいわゆる演習を主体とした少人数による外国語授業、「セミナー」は外国語の学修を通して言語文化の知識を養い、異文化理解を深めることを目指す授業です。皆さんの積極的な受講を期待しています。

I. 授業科目（授業時間割表及び授業要覧は6ページ以降に掲載）

外国語特別研修コース

科 目		開講期間	科 目		開講期間
		後 期			後 期
英 語	Level 2 a	—	フランス語	Level 1 a	—
	Level 2 b	○	ロシア語	Level 1 b	○
	Level 3 a	—	中国語	Level 2 a	—
	Level 3 b	○	スペイン語	Level 2 b	○
ド イ ツ 語	Level 1 a	○	朝鮮・韓国語	Level 1 a	—
	Level 1 b	—	ポルトガル語	Level 1 b	○
	Level 2 a	—	古典ギリシア語	Level 1	○
	Level 2 b	○	ラテン語		
			イタリア語		
			オランダ語		

注 授業 Level 1, 2, 3 は、この順で授業内容が高度になります。英語は、Level 1（初級レベル程度）は開講しません。

セミナー

科 目		開講期間
		後 期
英 語	言語文化セミナー	○
	言語表現セミナー	○

II. 授業期間・休業日・休講日・授業時間帯

1. 授業期間

後期：2005年10月3日(月)
～2006年2月3日(金)

2. 休業日

冬季休業期間：2005年12月28日(水)
～2006年1月7日(土)

3. 休講日

大学入試センター試験実施準備：
2006年1月20日(金)（予定）

4. 定期試験期間

後期：2006年2月6日(月)～2月17日(金)

5. 授業時間帯

第1時限 8:45～10:15

第2時限 10:30～12:00

第3時限 13:00～14:30

第4時限 14:45～16:15

第5時限 16:30～18:00

Ⅲ. 受講対象者

受講対象者は、本学の学部学生、大学院生、研究生等及び本学職員です。

ただし、特別聴講学生、科目等履修生、聴講生は受講できません。

受講手続きをするに当たっては、本冊子6ページ以降の授業時間割表の備考欄の記述に注意して下さい。

Ⅳ. 受講の辞退

事情により学期途中で受講できなくなった場合には、国際言語文化研究科事務室で交付される所定の「全学向け授業辞退届」を、必ず授業担当教員に提出して下さい。この手続きを行わずに受講放棄すると、以後、受講を認めないことがあります。

Ⅴ. 休講等

各授業科目の休講、教室変更、授業に関することは、国際言語文化研究科棟1階掲示板(玄関左側)で通知します。

Ⅵ. 成績の通知

成績評価の通知は以下のとおり行います。

1. 学部学生、大学院生、研究生等については、各部署長あてに通知します。
2. 職員については、本人に通知します。

Ⅶ. 受講申込み手続き

1. 外国語特別研修コース

英語

①申込場所

国際言語文化研究科事務室窓口(4ページの配置図を参照)

②申込期間及び時間

期間：2005年9月26日(月)・27日(火)

時間：9:00～12:00

13:00～17:00

* 申込期間以後は受け付けませんので注意して下さい。

③申込方法

「受講申込みカード」は国際言語文化研究科棟1階(4ページの配置図を参照)においてあります。

学部学生・大学院生・研究生等及び職員用：黄色(三連)

受講希望者は、該当するカードに必要な事項を記入し、受付に提出して下さい。
その際「本人及び教員保存用」のカードの紙片を受領して下さい。

④受講手続き

1. 「英語 Level 2」及び「英語 Level 3」の受講を希望する人はすべて、TOEIC公開試験あるいはその模擬問題集によって得た自分の英語力の点数を、受講申請の際に記入せねばなりません。TOEIC受験、あるいはその模擬問題集の採点は各自で行って下さい。

1) その模擬問題集として、例えば以下のものが出版されています。

(1) 『TOEIC公式ガイド&問題集 Vol. 2』(国際ビジネスコミュニケーション協会TOEIC運営委員会、2002年) 2,940円

(2) 岩村圭南(著) 『TOEICテストまるごと模試600問-CD2枚付き』(アルク、2004年) 2,310円

(3) 『TOEICテスト完全攻略』(旺文社デジタルインスティテュート、2001年) 7,140円

(4) 『TOEICテストスーパー模試シリーズ470点攻略』、『TOEICテストスーパー模試シリーズ600点攻略』、『TOEICテストスーパー模試シリーズ730点攻略』(以上三点、旺文社デジタルインスティテュート、2003年) 各7,140円

2) 受講希望者は、TOEICあるいはその模擬問題集によって知り得た自分の英語力のレベルに応じて、「英語 Level 2」あるいは「英語 Level 3」のどちらかを選択し、申請しなければなりません。その際、次の目安を参考にしてください。

英語 Level 2 受講者の英語力の目安：

TOEIC 650点以上～749点以下
英語 Level 3 受講者の英語力の目安：
TOEIC 750点以上

2. 受講申込みの詳細は以下の通りです。
- 申込み方法：受講希望者は、「受講申込みカード」に必要事項を記入の上、9月27日（火）17時までに国際言語文化研究科事務室窓口へ提出してください。受領した本人保存用および教員保存用の紙片に記載してある受講受付番号が事務手続きに必要となりますので、必ずその紙片を第1週目の授業時に持参してください。
- カード記入事項：「受講申込みカード」には、記入する必要がある事柄として、次の項目が含まれています。
 - (1) TOEICの点数。TOEICの模擬問題集を使って自己採点した結果でも可。（TOEIC以外の試験の点数は不可。）
 - (2) 希望する級。英語 Level 2あるいは英語 Level 3のどちらか。
 - (3) 希望するクラス。(2)で決めたカテゴリーの中から受講したいクラスを3つまで。（記入した希望クラスまで調整できなかった場合、同じレベルの任意のクラスに振り分けられることがあります。）
3. 受講可能人数を超える場合は提出された「受講申込みカード」のデータをもとに受講調整を行い、各授業の受講者を決定します（決定後の問い合わせには応じません）。ただし、定員に限りがあるので、受講希望者が全員受講できるとは限りません。
4. 各授業の受講調整の結果は、9月30日（金）9時00分（予定）までに国際言語文化研究科棟1階掲示板（玄関左側）に掲示されます。
5. 第1週の授業を無断で欠席した学生は、受講放棄とみなしますのでご注意ください。この件に関する学生からの質問などに対して、国際言語文化研究科事務室は対応しません。
6. 第1週目の授業時に担当教員に教員保存用紙片を渡してください。なお決

定された授業からの辞退は認められません。

7. 外国語特別研修コースの英語は、級を問わず一期に一クラスしか受講できません。

英語以外の外国語

全学向け授業としては、第2週〔10月11日（火）、12日（水）、13日（木）、14日（金）、17日（月）〕から開講します。

受講手続きは、次のとおりです。なお、希望者が多数の場合は第1回の授業時に受講調整を行います。

学部学生、大学院生、研究生等及び職員は、下記の1)から3)に従って配付場所で「受講申込みカード」を受け取り、第1回の授業時に担当教員に教員保存用「受講票」を提出して下さい。なお、4)の受講者登録手続も必ず行って下さい。

1) 受講申込みカード配付場所

国際言語文化研究科棟1階（4ページの配置図を参照）

2) 配付期間及び配付時間

期 間：2005年10月11日(火)～

10月17日(月)

時 間：平日 9：00～17：00

3) 配付カード

青色（三連）

4) 受講登録手続

授業時の受講調整後、受講が許可された授業科目について、「受講申込みカード」のうち受講申込票（事務室保存用）を国際言語文化研究科事務室へ提出して下さい（締切厳守）。

期 間：2005年10月11日(火)～

10月18日(火)

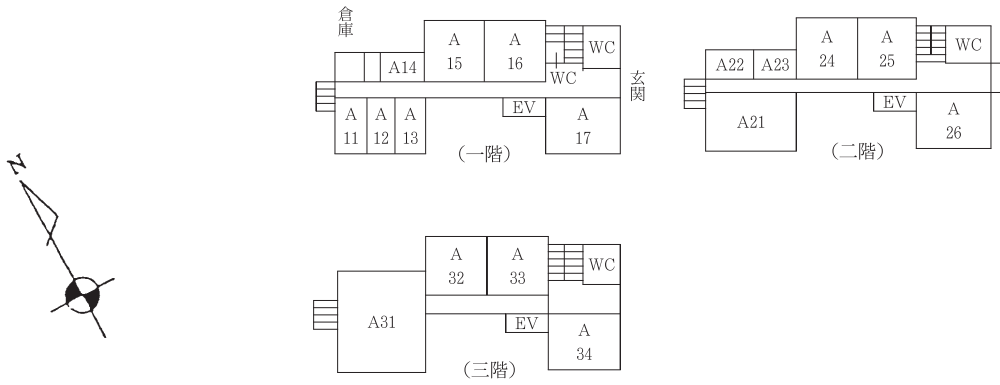
時 間：平日 9：00～17：00

2. セミナー

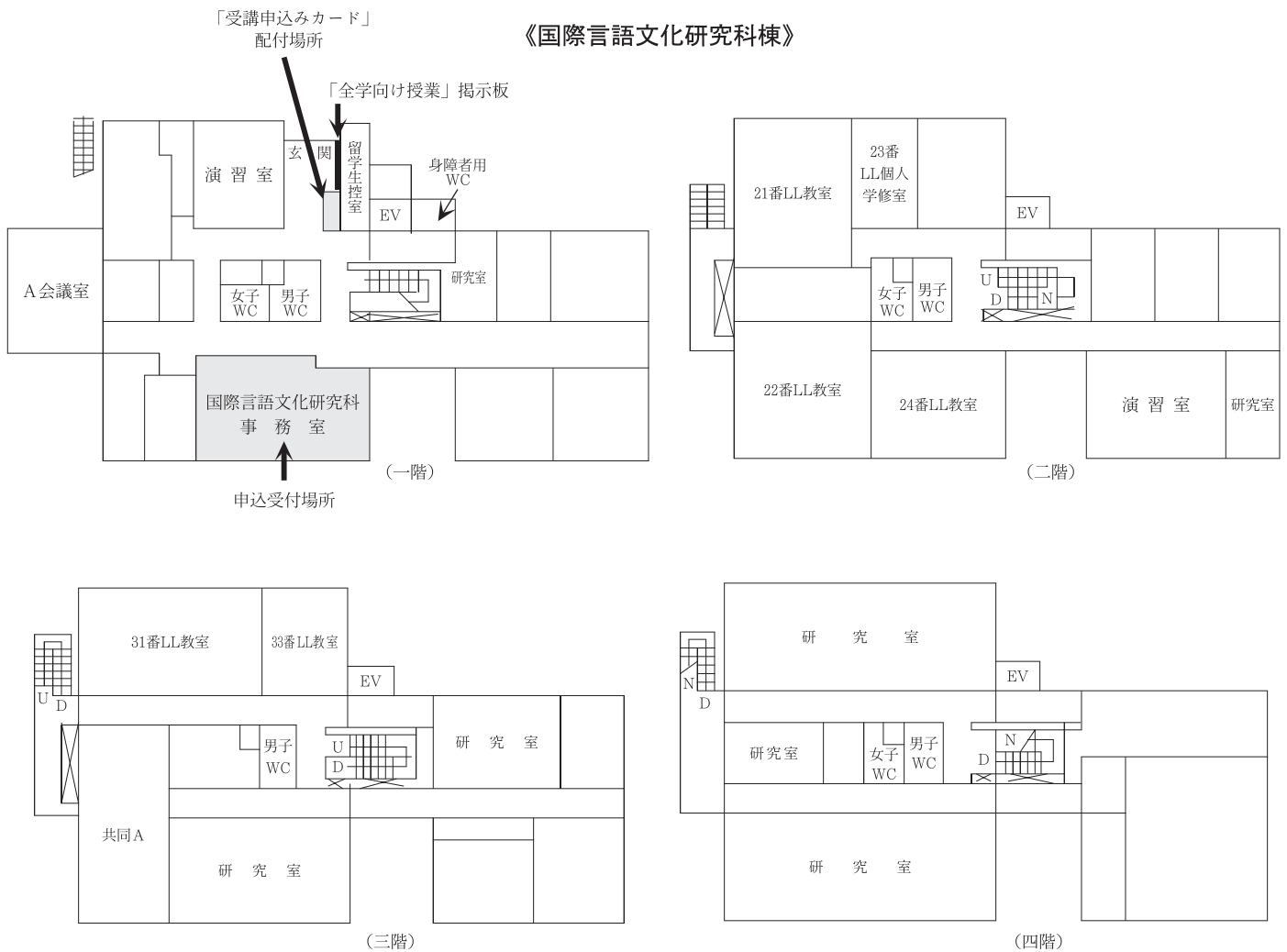
外国語特別研修コースの「英語以外の外国語」受講申込方法に準じ手続きを行って下さい。なお、全学向け授業（英語セミナー）は、第2週〔10月11日（火）、12日（水）、13日（木）、14日（金）、17日（月）〕から開講します。

全学教育棟及び国際言語文化研究科棟教室配置図

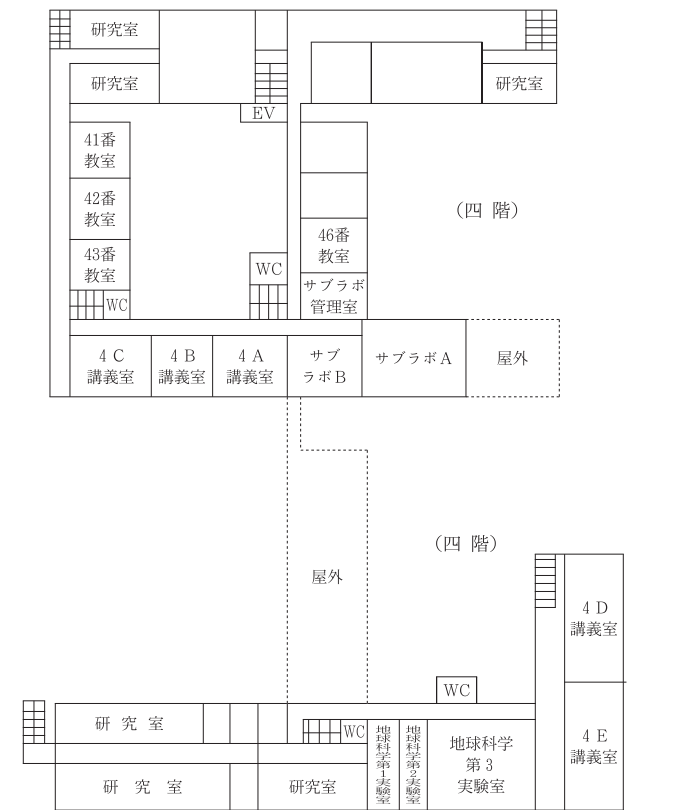
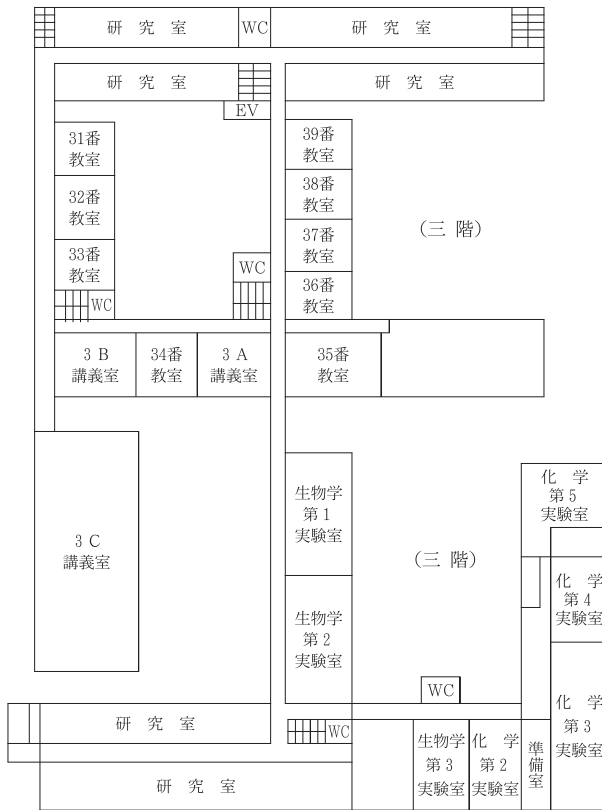
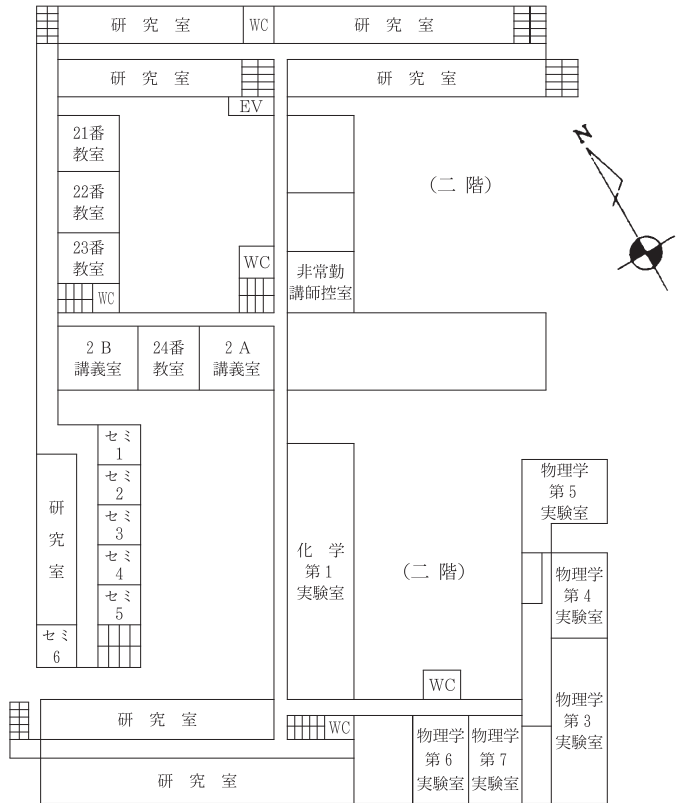
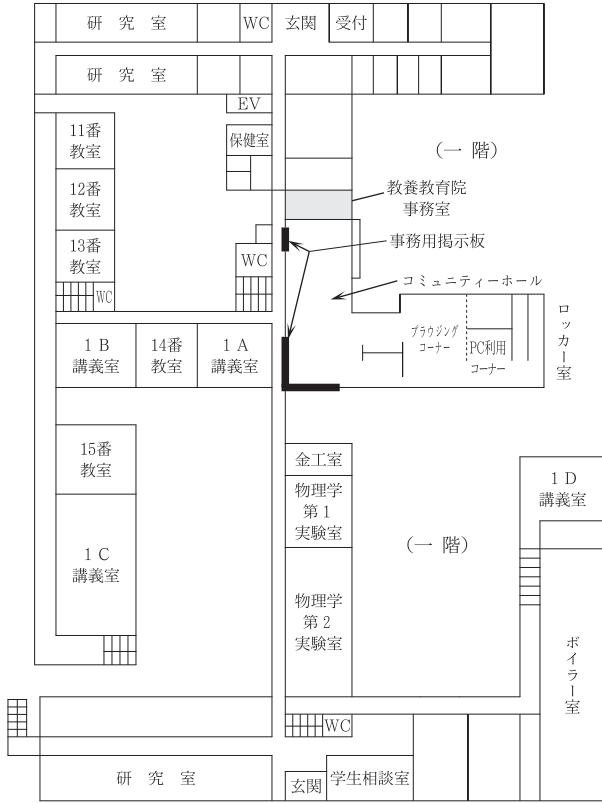
《全学教育棟 A館》



《国際言語文化研究科棟》



《全学教育棟本館（情報文化学部）》



「外国語特別研修コース」

	授 業 科 目	記号	担 当 教 員	曜 日 (時 限)	教 室	定 員	備 考
英 語	英語 Level 2b	A	Chua Liang	火 (2)	語22	20	
	英語 Level 2b	B	M.C.Weeks	火 (3)	11番	20	
	英語 Level 2b	C	M.C.Weeks	火 (4)	11番	20	
	英語 Level 2b	D	Chua Liang	水 (1)	語21	20	
	英語 Level 2b	E	E.T.W.Haig	水 (3)	41番	20	
	英語 Level 2b	F	D.Ramsey	水 (4)	33番	20	
	英語 Level 2b	G	D.Ramsey	木 (2)	A32	20	
	英語 Level 3b	H	D.Ramsey	水 (2)	33番	20	
	英語 Level 3b	I	M.C.Weeks	木 (2)	A33	20	
	英語 Level 3b	J	Chua Liang	木 (3)	語33	20	
ド イ ツ 語	ドイツ語 Level 1a		西 川 智 之	木 (4)	A34	20	次年度に継続
	ドイツ語 Level 2b		J.Peters	火 (3)	語21	20	前期から継続
フ ラ ン ス 語	フランス語 Level 1b		藤 村 逸 子	木 (5)	語24	20	前期から継続
	フランス語 Level 2b		未 定	火 (5)	語21	20	前期から継続
ロ シ ア 語	ロシア語 Level 1b		郡 敏 子	火 (2)	語33	20	前期から継続
	ロシア語 Level 2b		山崎 タチアナ	金 (3)	A25	20	前期から継続
中 国 語	中国語 Level 1b		加 納 光	水 (2)	37番	20	前期から継続
	中国語 Level 2b		前 田 光 子	月 (3)	語22	20	前期から継続
ス ペ イ ン 語	スペイン語 Level 1b		A. Villalobos	水 (4)	語21	20	前期から継続
	スペイン語 Level 2b		西 村 秀 人	木 (4)	語33	20	
朝 鮮 ・ 韓 国 語	朝鮮・韓国語 Level 1b		洪 順 愛	金 (3)	A26	20	前期から継続
	朝鮮・韓国語 Level 2b		鄭 芝 淑	火 (4)	42番	20	前期から継続
古 典 ギ リ シ ア 語	古典ギリシア語 Level 1b		有 川 貫 太 郎	木 (1)	語21	20	前期から継続
ポ ル ト ガ ル 語	ポルトガル語 Level 1b		兼安シルビア典子	木 (2)	語33	20	前期から継続
	ポルトガル語 Level 2b		水 戸 博 之	木 (4)	語21	20	前期から継続
ラ テ ン 語	ラテン語 Level 1b		水 戸 博 之	金 (2)	語33	20	前期から継続
オ ラ ン ダ 語	オランダ語 Level 1		小 坂 光 一	水 (2)	語33	20	
イ タ リ ア 語	イタリア語 Level 1b		C. Galisch	水 (4)	語22	20	前期から継続

「言語文化・表現セミナー」

	授 業 科 目	担 当 教 員	曜 日 (時 限)	教 室	定 員	備 考
英 語	言語文化セミナー	吉 村 正 和	月 (3)	語33	20	全学部
	言語文化セミナー	長 畑 明 利	水 (3)	42番	20	全学部
	言語文化セミナー	福 田 眞 人	木 (5)	語21	20	全学部
	言語表現セミナー	滝 沢 直 宏	月 (3)	語31	20	全学部
	言語表現セミナー	長 畑 明 利	金 (2)	39番	20	全学部
	言語表現セミナー	杉 浦 正 利	火 (3)	サブラボB	20	全学部

〈外国語特別研修コース〉

授業科目	担当教員	曜日・ 時限	定員	授 業 内 容
英 語 Level 2b	Chua Liang	火(2)	20	<p>本講義の目的およびねらい The purpose of this course is to develop listening skills and build fluency when conversing and when addressing an audience. The focus is on equipping students with skills and practice not just to speak but more importantly to converse and answer questions at a presentation. The goal is to help students become confident when speaking English.</p> <p>授業内容 Classes are conducted entirely in English. Class time is spent on both teaching and student-centred activities. The instructor will discuss communication techniques and strategies; help students find the right words for their expressions; elaborate on points of grammar; as well as help students refine their pronunciation. Activities include pair work, group work and whole class exercises involving information sharing and role playing to encourage real communication. Students will practise speaking English in different scenarios. They will learn how to converse, how to seek information, how to present information, how to tell others about themselves, how to ask about others, how to use language in difficult situations and so on. The emphasis is on communicative competence and on preparation for situations which students are likely to find themselves in. It is hoped that through practice, students will grow in their confidence and use their knowledge of English effectively. The materials and topics used in class are up-to-date, relevant and interesting to young people. Students will also analyse, discuss and present materials in English. Presenters are expected to answer questions from the audience.</p> <p>成績評価の方法 Attendance, participation, homework and an examination.</p> <p>参考書 Practical English Usage, Michael Swan, Oxford University Press.</p>
英 語 Level 2b	M.C.Weeks	火(3)	20	<p>本講義の目的およびねらい The primary aim is to develop and refine language skills that will be especially useful for traveling or living abroad. It is expected that our vocabulary and our familiarity with useful conversational structures and expressions will be improved. Accuracy of pronunciation and intonation for clear speech is also sought, as is improved listening ability. Furthermore, it is hoped that students will leave with a better understanding of practical cultural differences and how to live with them.</p> <p>授業内容 This course includes practical English learning for life abroad, for situations such as checking into a hotel, organizing travel, eating in a formal restaurant or making informal conversation while traveling. There will also be discussion of cultural differences that may help us to feel more confident and relaxed while abroad.</p> <p>Classes include a wide variety of activities, including informal pair conversations, role playing, team problem solving exercises, interviews and language games. Watching short authentic video presentations related to travel will give us listening practice and increase our knowledge of certain travel destinations. We will also do regular pronunciation practice so that we can speak more clearly and so converse effectively and without embarrassment in foreign contexts.</p> <p>Internet research is an important part of the homework for this course. Firstly, we will use the vast resources of the World Wide Web to regularly develop our vocabulary according to our individual needs and interests. Secondly, we will do a term paper using English language research on an overseas location of our own choice. There will also be small but regular pronunciation practice exercises for us to do outside class.</p> <p>成績評価の方法 Participation 30%, final conversation 30% report 20%, listening test 10%, vocabulary record 10%</p> <p>教科書 Nil. All materials supplied by teacher.</p> <p>参考書 A good dictionary, preferably English-English</p> <p>注意事項 English is the language of the classroom.</p>

授業科目	担当教員	曜日・ 時限	定員	授 業 内 容
英 語 Level 2b	M.C.Weeks	火(4)	20	<p>本講義の目的およびねらい The main aim here is simply to help students improve their general conversation skills and confidence so that they may speak long, clearly, effectively, and enjoyably in English in any situation. Development of listening and of writing skills is also a goal of this course.</p> <p>授業内容 Much of each class will be spent in conversation in pairs, groups and with the teacher to maximize the amount of communication we do. Pairings and groupings will change with each class, so that we can meet and talk with a wide range of people, keeping classes interesting and building our confidence for communicating in a variety of situations in the future. We will examine conversation techniques and language structures for numerous common situations, including meeting people, informal discussion, decision-making, problem-solving, sharing opinions, interviewing, expressing feelings, plans and hopes. Because it can be difficult to find situations for English language conversation in our daily lives, the emphasis here will be on you practicing, that is, talking and more talking. We will do some work on our pronunciation to make our speech more easily understood and so help you gain confidence and avoid embarrassment in conversation.</p> <p>There will be some short, intensive listening exercises, often through video, to give us examples of effective conversation, common language structures and vocabulary. Students may work individually with the teacher on other specific skills such as writing to suit their needs.</p> <p>成績評価の方法 Participation 30%, final conversation 30% report 20%, vocabulary record 10% listening test 10%</p> <p>教科書 Nil. All materials supplied by teacher</p> <p>参考書 A good dictionary, preferably English-English</p> <p>注意事項 English is the language of the classroom.</p>
英 語 Level 2b	Chua Liang	水(1)	20	<p>本講義の目的およびねらい The purpose of this course is to develop listening skills and build fluency when conversing and when addressing an audience. The focus is on equipping students with skills and practice not just to speak but more importantly to converse and answer questions at a presentation. The goal is to help students become confident when speaking English.</p> <p>授業内容 Classes are conducted entirely in English. Class time is spent on both teaching and student-centred activities. The instructor will discuss communication techniques and strategies; help students find the right words for their expressions; elaborate on points of grammar; as well as help students refine their pronunciation. Activities include pair work, group work and whole class exercises involving information sharing and role playing to encourage real communication. Students will practise speaking English in different scenarios. They will learn how to converse, how to seek information, how to present information, how to tell others about themselves, how to ask about others, how to use language in difficult situations and so on. The emphasis is on communicative competence and on preparation for situations which students are likely to find themselves in. It is hoped that through practice, students will grow in their confidence and use their knowledge of English effectively. The materials and topics used in class are up-to-date, relevant and interesting to young people. Students will also analyse, discuss and present materials in English. Presenters are expected to answer questions from the audience.</p> <p>成績評価の方法 Attendance, participation, homework and an examination.</p> <p>参考書 Practical English Usage, Michael Swan, Oxford University Press.</p>
英 語 Level 2b	E.T.W.Haig	水(3)	20	<p>本講義の目的およびねらい To develop students' confidence and spontaneity in spoken interaction. A further aim is to allow students the chance to participate in a form of</p>

授業科目	担当教員	曜日・ 時限	定員	授 業 内 容
英 語 Level 2b	E.T.W.Haig	水(3)	20	<p>drama which most of them will never have experienced before: improvisation.</p> <p>授業内容 This course is based on improvised drama games. Students work in teams to perform short improvised scenes in English. These scenes do not require any memorization of scripts but rely instead on students' imaginations. The aim is to create a cooperative and supportive environment in which students develop their ability to work with whatever communication resources they possess. This is not an academic content-based course and there will be no discussion of 'issues' or attention paid to accuracy. The focus is firmly fixed on fluency, fantasy and fun.</p> <p>During the first few lessons of the course, the basic ideas behind improvised drama will be introduced to the students as they work in small groups to invent their own skits and sketches. As they develop their improvisation abilities, students will be given a number of progressively challenging improvisation games and tasks to perform. Towards the end of the course students will be introduced to the exciting improvised drama game format known as Theatre Sports. This is a lively team game in which teams of actors compete with each other to perform various kinds of improvisations.</p> <p>成績評価の方法 Regularity of attendance and degree of active participation</p> <p>注意事項 Students will be expected to expect the unexpected!</p>
英 語 Level 2b	D. Ramsey	水(4)	20	<p>本講義の目的およびねらい This course aims to develop listening, speaking, and critical thinking skills. While some reading will be required to provide the necessary topics and issues, emphasis will be on interactive communication and the ability to participate in debates.</p> <p>履修条件関連する科目 An eagerness to talk and to share ideas.</p> <p>授業内容 The course will proceed as a discussion group on contemporary world issues. The internet, newspapers, and news magazines will provide the texts for our starting points, and students will work primarily in small groups of 4-5 people to share their ideas and concerns about the topics of discussion.</p> <p>Topics will be decided upon by the class, and they will be timely and relevant to make them more interesting and useful. General topics may include politics and economics; more specific topics have included gender discrimination in the workplace, government control of the internet, world hunger, and Japan's role in the international community.</p> <p>成績評価の方法 Regular attendance, active class participation, presentations, reports.</p> <p>参考書 Dictionary.</p> <p>注意事項 Students will be responsible for bringing in appropriate texts and articles relevant to the topics discussed.</p>
英 語 Level 2b	D. Ramsey	木(2)	20	<p>本講義の目的およびねらい This course aims to develop listening, speaking, and critical thinking skills. While some reading will be required to provide the necessary topics and issues, emphasis will be on interactive communication and the ability to participate in debates.</p> <p>履修条件関連する科目 An eagerness to learn and to share ideas.</p> <p>授業内容 The course will proceed as a discussion group on contemporary world issues. The internet, newspapers, and news magazines will provide the texts for our starting points, and students will work primarily in small groups of 4-5 people to share their ideas and concerns about the topics of discussion.</p> <p>Topics will be decided upon by the class, and they will be timely and relevant to make them more interesting and useful. General topics may include politics and economics; more specific topics have included gender</p>

授業科目	担当教員	曜日・ 時限	定員	授 業 内 容
英 語 Level 2b	D. Ramsey	木(2)	20	discrimination in the workplace, government control of the internet, world hunger, and Japan's role in the international community. 成績評価の方法 Regular attendance, active class participation, presentations, reports. 参考書 Dictionary. 注意事項 Students will be responsible for bringing in appropriate texts and articles relevant to the topics discussed.
英 語 Level 3b	D. Ramsey	水(2)	20	本講義の目的およびねらい This advanced course will develop listening and speaking skills through drama. Vocabulary, fluency, and pronunciation will be especially improved through this course. Students will also develop their confidence in speaking before a group of people. 履修条件関連する科目 An eagerness for active participation. 授業内容 We will read aloud and perform dramas in class, as well as listen to and watch performances on audio and video tape. Students should read over assigned pages and prepare questions and comments beforehand, so that class time can be spent asking and answering questions, and reading aloud and performing the plays. Some class time in the beginning will be dedicated to answering grammatical questions and providing a deeper understanding of the ideas and vocabulary presented. While comprehension will be developed through some etymological explanations (word histories--focusing on Latin and Greek origins), we will spend most of our time exploring the meaning of the plays and actually performing them to develop both critical thinking as well as fluency. 成績評価の方法 Regular attendance and active class participation. 教科書 To be announced. 参考書 Dictionary. 注意事項 This class requires an outgoing personality.
英 語 Level 3b	M.C.Weeks	木(2)	20	本講義の目的およびねらい The aim is to develop high-level conversation skills, to improve listening, and to expand practical vocabulary. The course also seeks to give students maximum feedback on their progress in all areas of their English learning, including writing. A further aim is to develop cultural and cross-cultural understanding. 授業内容 Comical texts from various media, such as TV, movies, internet and magazines, form the basis of classes, providing listening and reading practice with texts NOT used by this teacher before. Classes are conducted mostly in groups and pairs to maximize conversation opportunities. Together we will do informal conversation, interviews, problem-solving exercises and games. We will do a wide variety of activities and examine a range of topics through comedy, including relationships, work, social problems, families and leisure activities. We will often compare English speaking cultures with Japan or the home country of students. The reading practice and vocabulary development in particular will sometimes involve homework, extending our learning beyond the classroom and maximizing time spent in class on the other skills, especially conversation and listening. Students will prepare a report for writing practice and may submit writing voluntarily for feedback throughout the semester. 成績評価の方法 Participation 30%, final conversation 30% report 20%, vocabulary record 10%, listening test 10% 教科書 Nil. All materials supplied by teacher 参考書 A good dictionary, preferably English-English 注意事項 English is the language of the classroom.

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授 業 内 容
英 語 Level 3b	Chua Liang	木(3)	20	<p>本講義の目的およびねらい The purpose of this course is to refine listening and speaking skills, as well as encourage analytical and critical thinking. Students will be asked to express their ideas and opinions. Accuracy is stressed. The goal is to help students become articulate.</p> <p>授業内容 Classes are conducted entirely in English. Class time is spent on both teaching and student-centred activities. The instructor will help students express their thoughts accurately in English; help students find the right words for the ideas and opinions they want to communicate; ensure that the sentences produced are grammatically sound and easy to understand; and make sure that they speak clearly. Students are trained to be articulate individuals. Activities include pair work, group work and whole class exercises involving information sharing and role playing to encourage real communication. Through the study of articles from newspapers and magazines (on a variety of topics including current affairs and those of students' choices), students will analyse and discuss their contents. They will also present materials as well as their views and opinions to the class and answer questions from the audience. Students will also prepare and debate with each other over a variety of controversial issues. It is hoped that they will be able to use English with ease and confidence in different contexts.</p> <p>成績評価の方法 Attendance, participation, homework and an examination.</p> <p>参考書 Practical English Usage, Michael Swan, Oxford University Press.</p>
ドイツ語 Level 1a	西川智之	木(4)	20	<p>本講義の目的およびねらい ドイツ語を初めて学ぶ人のための授業です。全くの初歩から始めます。次年度前期まで継続します。</p> <p>パートナー練習を中心に、自分たちが授業に積極的に参加することで、ドイツ語の文法の基礎を身につけてもらいます。</p> <p>授業内容 授業のおおよその進行は：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. まず授業の最初に前回の授業内容の小テストを行う。 2. 例文の提示。 3. 教師に倣っての復唱。 4. 文法や語句についての説明。 5. パートナーとの練習等により文法項目や語句、表現の習得。 <p>週1回の授業なので、練習問題などの宿題が課されることも多いと思う。ドイツ語のアルファベットから始まって、動詞の変化、冠詞類の変化など、今後ドイツ語を続けて学んでいきたい人にはどうしても必要な基礎を、能動的に体得してほしい。</p> <p>教科書をすべて終えることは無理なので、すべての項目を網羅的にあつかうのではなく、必要と思われる項目は時間をかけて勉強していきたい。</p> <p>成績評価の方法 毎回の小テストと、平常点を中心に成績評価を行う。授業の進行具合によっては、学期末テスト・中間テストを行い、成績評価の参考にすることもある。</p> <p>教科書 前田良三、高木葉子『身につくドイツ文法』（郁文堂）</p> <p>注意事項 パートナー練習を中心に授業を進行するので、学生諸君の積極的な授業への参加が求められる。また、小テストの準備など、家での復習が重要となる。</p>
ドイツ語 Level 2b	J. Peters	火(3)	20	<p>本講義の目的およびねらい このコースは「聞く・話す」ことと「読み・書く」能力を養成する。</p> <p>本講義の目的およびねらい 二年時修了程度のドイツ語能力を前提とします。</p> <p>授業内容 Die Anwendung grundlegender und wichtiger grammatischer Strukturen soll gefestigt werden. Darüberhinaus werden kompliziertere grammatische Strukturen behandelt, die einem bedeutende kommunikative Möglichkeiten an die Hand geben oder einfach nur eine grössere Variabilität im Ausdruck ermöglichen.</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授 業 内 容
ドイツ語 Level 2b	J. Peters	火(3)	20	成績評価の方法 平常点(宿題、積極的な授業参加)、小テスト、学期末の試験 教科書 Passwort 3, Kurs-und Uebungsbuch (Klett)
フランス語 Level 1b	藤村逸子	木(5)	20	本講義の目的およびねらい フランス語の基礎的な文法知識を獲得しつつ、それと同時に初歩的な運用能力も修得することを目指す。また、フランス語圏の社会と文化について、基礎的な知識を与える。 履修条件関連する科目 新たにフランス語を始める学生のためのクラス。前期に開講されるフランス語 Level 1a を引き継ぐ。前期も履修することが望ましい。 授業内容 週一度の授業で一年間かけてフランス語の基礎を修得するクラス。フランス語の基礎の習得のヤマは、なんと言っても動詞を使いこなすことであろう。ふつう、フランス語というと発音の難しさが強調されるが、母語のようになろうとする人は別として、意思疎通可能な範囲での発音はさほど難しくない。 この授業にきちんとついてくれば、一年後には確実に、フランス語の文章を読んだり、フランス語会話がそこそこできたりするまでになる。がんばろう。 成績評価の方法 平常点と筆記試験による。 教科書 大木、バルトネ、ラローズ著『新C D フランス語文法』(朝日出版社) 注意事項 定員は20名。
フランス語 Level 2b	未 定	火(5)	20	本講義の目的およびねらい フランス語基礎文法を既に習得した学生を対象とし、フランス語の文章の読解能力、フランス語による表現能力の向上をはかる。また、フランス語圏の社会・文化について一層深い理解を獲得できるようにする。 授業内容 ネイティブ・スピーカーが原則としてフランス語で授業を行う。具体的な内容は第1回目の授業の際に説明されるので、受講希望者は必ず出席すること。
ロシア語 Level 1b	郡 敏子	火(2)	20	本講義の目的およびねらい 新たにロシア語を習う学生ばかりでなく今一度基礎からやり直したい学生も対象とする、ロシア語の基礎を学ぶための科目である。バランスよくロシア語を学べるよう、基礎文法の学習だけではなく、日常会話の練習や平易な文章の講読も行う。併せて、文化・風俗・歴史・社会事情など背景の知識を学習することによりロシア語世界の諸相を理解し、国際的視野の涵養を図る一歩とする。目標は「ロシア語に触れる」である。 履修条件関連する科目 前期からの継続受講者 授業内容 1. 「この人は誰ですか?」: 所有代名詞(誰それの)など 2. 「知ってますか?」: 動詞の現在変化など 3. 「ノートは机の中です」: 名詞の前置格(場所の表現)など 4. 「私は東京から来ました」: 国籍・出身地の表現など 5. 「すみません、入っていいですか?」: 許可・禁止の表現、動詞過去形 6. 「今日は試験です」: 数詞(1-10)など 7. 「ロシア語はおもしろい」: 形容詞の性数変化など 8. 「頭は何のためにあるのでしょうか?」: 身体を表わす語彙など 9. 「ご兄弟はいらっしゃいますか?」: 所有の表現など 10. 「今私は東京にいます」: 手紙の表現など 11. 「紅茶とコーヒーどちらですか?」: 名詞の対格など 12. 「どこにいたの?」 13. 「これはおいくらですか?」: 買い物、食事の表現 14. 「お店はどこでしょうか?」: 運動の表現(…へ歩いて行く) 15. 「あした私は出張です」: 動詞の未来形など 16. 「5時に会いましょう」: 曜日、数字(11以上) 17. 「私はあさってロシアへ行きます」: 運動の表現(…へ乗り物で行く) 成績評価の方法 普段の授業での取り組みぐあいと定期試験で評価する。

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授 業 内 容
ロシア語 Level 1b	郡 敏子	火(2)	20	<p>教科書 米重文樹、ピョートル・トマルキン著『話すロシア語入門』白水社</p> <p>参考書 辞書：『博友社ロシア語辞典』『岩波ロシア語辞典』『研究社露和辞典』</p> <p>注意事項 授業での口頭練習に積極的に取り組んで、楽しみながら着実にロシア語を身につけましょう。</p>
ロシア語 Level 2b	山崎 タチアナ	金(3)	20	<p>本講義の目的およびねらい ロシア語の初級文法をすでに習得した学生を対象とし「習うロシア語から使うロシア語」を指向する科目である。さらに高度な文法知識を得ると同時に、生のロシア語に実践的に対応できるような運用能力を養成する。したがって、口頭表現力、聴解力を養成するための授業ではできるだけロシア語を用いる。また、言語文化Ⅰあるいはロシア語Level 1に引き続き、さらにロシア語世界の理解を深める。目標は「ロシア語を活かす」である。</p> <p>授業内容 この授業は、初級コースを終えた学生を対象にしています。ネイティブが担当しますので、生きた会話を授業の軸足とし、90分間を積極的な質疑時間として構成します。</p> <p>ロシア語に限らず各外国語の学習に欠かせないのは、「書く」、「読む」、「話す」、「聞く」という過程ですが、この授業は、これら4つの過程を逆順にし、授業を進行していきます。具体的な流れは、以下のようになります。</p> <p>ウォーミングアップとして、毎回日付や天気をロシア語で確かめ、一つの単語を抜き打ちで取り上げ、それに関する慣用句、日常の言い習わしを練習します。</p> <p>その都度、テーマに合わせた短文を読みながら文中に出てくる言い習わしや、日常使用する表現を、質疑の形態で練習します。テーマとして採用するのは、街を見学する、買い物をする、レストランで食事をする、人の外見や性格を表現する、大学で外国語を学ぶなどです。</p> <p>成績評価の方法 評価の方法は、出席および試験期間内のマンツーマンでの口頭試験の二つによって評価します。特に出席は重視します。</p> <p>教科書 プリント配布</p> <p>参考書 参考書は授業中に指示する。露和辞典は、「博友社ロシア語辞典」、「岩波ロシア語辞典」、「研究社露和辞典」の内から一冊を購入すること。</p> <p>注意事項 授業に積極的に参加することが望まれます。</p>
中国語 Level 1b	加納 光	水(2)	20	<p>本講義の目的およびねらい 中国語Level 1bは、中国語Level 1aの継続であり、教科書も中国語Level 1aで使用した教科書を継続して用いる。引き続き正しい発音の習得に重点を置きながら、今後中国語の学習を続けていくうえで必要な読解力、表現能力等の養成を目的とする。</p> <p>履修条件関連する科目 中国語Level 1aの内容を習得していること。</p> <p>授業内容 中国語Level 1bでは、中国語Level 1aで習得した4 1 1の音節の発音を固めながら、基礎的な文法事項を解説する。特に兼語文・比較表現・受身文・各種の補語・接続詞等に対する理解を促し、読解力の一層の養成を図るとともに、中国語表現の特徴について理解を深めるように指導する。</p> <p>成績評価の方法 平常点と期末試験による。</p> <p>教科書 加納光・白木通・成戸浩嗣著「ようこそ、中国語の世界へ」(白帝社)</p>
中国語 Level 2b	前田光子	月(3)	20	<p>本講義の目的およびねらい この授業は日本人講師による講読を中心とした授業であり、より高度な読解力の養成を目的とする。</p> <p>中国語の初級(発音・文法事項等)をすでに習得した学生を対象とし、さらに高度な文法的知識を得ると同時に、現代中国についての理解を深める。</p> <p>履修条件関連する科目 中国語または中国に対して興味を持ち、且つ学習意欲が旺盛であること 中国語の初級(発音・文法事項等)を習得していること</p> <p>授業内容 中国語中級～上級程度の読み物を中心としたテキストを用い、現代中国のさまざまな問題やテーマについて、これまでに習得した単語・文法事項を確認しながら正確に読解する。それによってさらに高度な文法的知識やより多くの語彙を確実に身につけると同時に、現代中国への理解を深める。</p> <p>成績評価の方法 平常点：課題及びレポート：期末試験＝2：4：4</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授 業 内 容
中国語 Level 2b	前田光子	月(3)	20	<p>教科書 授業初回時に指示する。 参考書 授業時に指示する。 注意事項 履修希望者は第一回目の授業に必ず出席すること。(履修希望者多数の場合、選抜試験を行う。) 毎回の予習・課題をきちんとこなすなどの積極的授業態度を求める。</p>
スペイン語 Level 1b	A.Villalobos	水(4)	20	<p>本講義の目的およびねらい 前期同様、基礎文法の学習を進めながら、簡単な文を使ってコミュニケーションができるよう練習を重ねていく。 聞く・話す・読む・書くといった総合的基礎言語能力の伸長に努めたい。</p> <p>履修条件関連する科目 特にないが、前期からの継続であるため、初歩あるいは入門程度のスペイン語の知識があることが望ましい。</p> <p>授業内容 前期と同じテキストを用い、文法学習を継続する。再帰動詞、現在・過去分詞、受動態、動詞の活用(接続法現在形・直説法過去形)、関係詞など、より複雑な文法内容に取り組むことにより、会話力・作文力の向上に結びつけていきたい。 前期において充分あつかうことのできなかった項目を復習し、できれば教科書の第10課から学習したい。 教科書の内容は以下のとおりである。 文法事項とともに各場面でのスペイン語によるコミュニケーションを学ぶ。 第10課 レストランで 第11課 自己紹介 第12課 警察で 第13課 本屋で 第14課 バルセロナからの手紙 第15課 病院で 第16課 民芸品店で 第17課 航空会社予約カウンターで 第18課 空港で コミュニケーションボードも参照。</p> <p>成績評価の方法 出席態度、試験などにより総合的に判断する。</p> <p>教科書 『<改訂版>コミュニケーションのためのスペイン語』(第三書房) 参考書 西和辞典</p> <p>注意事項 開講時、受講者の学習歴に差違があることが予想されるが、充分配慮の上、授業を進めるので、積極的に質問をし要望も遠慮無く担当者へ言って欲しい。</p>
スペイン語 Level 2b	西村秀人	木(4)	20	<p>本講義の目的およびねらい 本授業の目的は、これまで学習してきたスペインの基礎文法を踏まえた上で、それらをさらに発展させ、実践的で総合的なスペイン語の理解を深めることにある。具体的にはラテンアメリカに関するさまざまなタイプの文章を読み解くことで、これまで学習してきた文法事項も確認しつつ、より具体的なスペイン語の運用を目指す。</p> <p>履修条件関連する科目 第Ⅰ・Ⅱ期スペイン語1・2・3・4またはスペイン語 Level 1a・bを受講している、もしくは、それと同等の基礎知識を有すること。</p> <p>授業内容 受講者の希望によって調整するが、基本的にはスペイン語で書かれたさまざまなタイプの文章を購読していくことに重点を置いていきたい。この授業で扱うのは、 (1) ラテンアメリカ諸地域を扱った新聞記事 (2) ラテンアメリカ各地域の食文化・音楽・社会問題などに関する短めの文章 (3) ラテンアメリカのジョーク 等である。 またラテンアメリカの音楽CDを使ったヒアリングも随時行っていきたい。さらに購読した内容を踏まえた上で自分の意見を作文する、あるいはその内容に関する質問に自由に答えるといった実践的な訓練も可能な限り行っていきたいと考えている。 文章の購読に際しては適宜文法的解説も含め、これまで学んできた基礎文法のより完全な理解を目指したい。また文法的な問題だけでなく、さまざま</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授 業 内 容
スペイン語 Level 2b	西村 秀人	木(4)	20	<p>まなタイプの文章を読解していくことによって、読解のスピードを上げるのに必要な「スペイン語に対する勘」のようなものを育てていきたい。</p> <p>成績評価の方法 出席状況、授業への積極的な参加、レポート、定期試験の結果を総合的に評価する。</p> <p>教科書 プリントを配布する。</p> <p>参考書 新聞、WEBページなど授業時に随時紹介する。</p> <p>注意事項 履修条件と授業内容を十分に理解した上で登録すること。</p>
朝鮮・韓国語 Level 1b	洪 順愛	金(3)	20	<p>本講義の目的およびねらい 新たに朝鮮・韓国語を習う学生ばかりでなく今一度基礎からやり直したい学生も対象とする、朝鮮・韓国語の基礎を学ぶための科目である。 バランスよく朝鮮・韓国語を学べるよう、基礎文法の学習だけではなく日常会話の練習や平易な文章の講読も行なう。併せて、文化・風俗・歴史・社会事情など背景の知識を学習することにより朝鮮・韓国語世界の諸相を理解し、国際的視野の涵養を図る一歩とする。目標は「朝鮮・韓国語に触れる」である。</p> <p>履修条件関連する科目 朝鮮・韓国語 Level 1aからの継続であるが、相応の準備があれば後期からでも受講可。</p> <p>授業内容 この授業では次のような能力を養成する。 書記法・発音…ハングルで書かれた文章を確実に読めるようにし、簡単な文章をハングルで正しく書けるようにする。 文法…基礎的文法を学習する。 日本語話者にとって韓国語の文法事項のうち最も重要なものは用言の活用であるので、この点に重点を置いて学習する。 学習する主な文法事項は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語基の作り方と使い方 ・不規則活用・機能別の文種（命令文・禁止文・勧誘文・感嘆文） ・可能否定文 ・過去形 ・進行形 ・可能文 ・願望形 ・緩除形 ・連体形 ・基本的な接続表現（「～して」「～するが」「～すれば」「～するので」「～しながら」などに相当するもの） ・文体（くだけた丁寧体） ・話し言葉の特徴 <p>口頭表現力…上の文法事項を含む文章を使って簡単な会話ができるようにする。</p> <p>成績評価の方法 出欠状況、小テスト及び期末試験の成績により総合的に評価する。</p> <p>教科書 朝鮮・韓国語 Level 1aで用いた教材と同じ。</p> <p>参考書 必要なものは授業中に指示する。</p>
朝鮮・韓国語 Level 2b	鄭 芝淑	火(4)	20	<p>本講義の目的およびねらい 朝鮮・韓国語の初級文法をすでに習得した学生を対象とし「習う朝鮮・韓国語から使う朝鮮・韓国語」を指向する科目である。さらに高度な文法的知識を得ると同時に、生の朝鮮・韓国語に実践的に対応できるような運用能力を養成する。したがって、口頭表現力、聴解力を養成するための授業ではできるだけ朝鮮・韓国語を用いる。 また、言語文化 I あるいは朝鮮・韓国語 Level 1 に引き続き、さらに朝鮮・韓国語世界の理解を深める。目標は「朝鮮・韓国語を活かす」である。</p> <p>履修条件関連する科目 言語文化 I あるいは朝鮮・韓国語 Level 1 を履修した者を対象とするが、相応の力があればこれらを履修していなくても構わない。ただし、受講申請時に担当教員に相談すること。</p> <p>授業内容 この授業では朝鮮・韓国語 Level 1 あるいは言文 I の学習を通じて得た文法的知識に基づく口頭表現力および聴解力の養成を目指す。授業はできるだけ韓国語を用いて行い、「習うより慣れよ」の原則に従って学習す</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授業内容
朝鮮・韓国語 Level 2b	鄭 芝淑	火(4)	20	<p>る。発音や文法にこだわらずに、言いたいことを現在の能力を駆使して表現する姿勢と能力を養う。対話の相手が誰であるかに応じた異なる文体の表現を使えるようにする。</p> <p>学習事項は、次のような表現形式である。(ただし、順不同。字間の都合により項目の出し入れもある)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 自己紹介…他人に自分を紹介するための基本的な表現形式を学習する。 2) 紹介…他人を紹介するための様々な表現形式を学ぶ。 3) 出会いと別れ…様々な出会いと別れの場面に用いられる表現を学習する。 4) 約束…人と何かを約束するとき用いる表現を学習する。 5) 道聞き…人に道を尋ねるときに使われる代表的な表現形式を学ぶ。 6) 電話…電話での対話の基本形式に習熟する。 7) 宿泊…宿泊の予約や宿泊施設内での対話に応用される表現を学習する。 8) 病院で…診療の際の医師との対話に必要な表現を学習する。 9) 食堂で…食堂で料理を注文するなど従業員との対話に応用される表現を学習する。 10) ノレバンで…カラオケに行って歌を楽しむ時の対話を学習する。これについては、受講者の希望があれば実際にカラオケで行うかも知れない。 <p>成績評価の方法 出席状況、平常点、期末試験の成績により総合的に評価する。期末試験は韓国語による面接試験とし、その評価に占める割合は6割程度とする。</p> <p>教科書 プリント教材。</p> <p>参考書 必要な物は授業中に指示する。</p> <p>注意事項 日韓辞典を必ず用意すること。</p>
古典ギリシア語 Level 1b	有川貫太郎	木(1)	20	<p>授業内容 前期に引き続き、古典ギリシア語の初歩を学ぶ授業です。この授業で用いる教材のコンセプトは、古典ギリシア語をなるべく「自然に」学ぶということにあります。そのために、各单元ごとに、ごく日常的なシーンを扱ったナレーションと会話からなる、一貫したストーリーを読みます。それは古典作品を巧みにアレンジしたもので、教材前半の、アリストパネスの作品をアレンジした劇なども、きっと興味をそそられるでしょう(間接的にソクラテスも登場します)。ソクラテスの同時代人になったつもりで、なるべく多く音読し、書き、そして文法もそれに劣らず修得していきましょう。</p> <p>履修条件関連する科目</p> <p>以前トライしたことのある人なら、後期からでも不可能ではありません。少しでも興味のあるかたは、自由にご参加ください。ただし、参加した以上は休まないことが大切です。</p> <p>授業内容 引き続き教材にそって進みます。ソクラテスの生きた時代のアテネにタイムスリップして、そこで使われる「生きた言葉」としての古典ギリシア語を学んでいきます。</p> <p>題材としては、当時の市民生活のさまざまな面が扱われています。ペロポネソス戦争下の人々の生活、亡命者、女性の人生、訴訟等々。後半ではエウリピデスの劇、ホメロスの「オデュッセイア」からナウシカの一節が原文で取り上げられています。これをゴールに見据えて日々努めていきましょう。</p> <p>成績評価の方法 平常点(日々の練習達成度、課題など)と期末テストによって総合的に評価します。</p> <p>教科書 1. Reading Greek: Text. (The Joint Association of Classical Teacher's Greek Course) (Cambridge University Press) 2. Reading Greek: Grammar Vocabulary and Exercises. C.U.P.</p> <p>注意事項 教材はテキスト1冊と解説書1冊からなる。テキストのほうは必須。参加者数を確認してから注文する。 学ぶ量が多いので、欠席しないことが大切。</p>
ポルトガル語 Level 1b	兼安シルビア 典子	木(2)	20	<p>本講義の目的およびねらい</p> <p>ポルトガル語 Level 1b は、ポルトガル語 Level 1a の継続であり、引き続きブラジルポルトガル語の発音及び基礎的な文法事項を徹底的に学び、今後ポルトガル語の学習を続けていくうえで必要となる基礎力の養成を目的とする。</p> <p>履修条件関連する科目</p> <p>前期開講のポルトガル語 Level 1a の継続授業である。それを受講していない場合でも、ポルトガル語の初歩的な知識を身に付けた人であれば、だれで</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授業内容
ポルトガル語 Level 1b	兼安シルビア 典子	木(2)	20	<p>も受講可能である。院生及び教職員も受講の対象とする。</p> <p>授業内容 このポルトガル語 Level 1 の授業は、前期に引き続き、週一度の授業で一年間かけてポルトガル語の基礎を修得するクラスである。そのため、ブラジルポルトガル語の最も基礎的な文法事項を徹底的に学習できるように企画された教材を用い、十分な練習問題を織り混ぜながら無理のないペースで順次ステップアップしていく予定である。また、発音クリニックを行いながら「聞く・話す・読む・書く」という総合的な運用力を付けて基礎的な会話力を強めてゆくとともに、受講者の関心に応じてブラジルの文化や生活習慣の紹介も併せて行ってゆきたい。</p> <p>授業の展開は次のように予定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時刻の表現 ・ESTAR 動詞の活用（直説法現在形）と用法 ・TER 動詞の活用（直説法現在形）と用法 ・QUERER 動詞の活用（直説法現在形）と用法 ・FAZER 動詞の活用（直説法現在形）と用法 ・IR 動詞の活用（直説法現在形）と用法 ・VIR 動詞の活用（直説法現在形）と用法 ・PODER 動詞の活用（直説法現在形）と用法 ・SABER 活用（直説法現在形）と用法 ・CONSEGUIR 動詞の活用（直説法現在形）と用法 ・CONHECER 動詞の活用（直説法現在形）と用法 <p>成績評価の方法 定期試験に加え授業参加を重視し、総合的に判定。</p> <p>教科書 来年度出版予定の教科書を用いるため、今年度はそのコピーを配布。</p> <p>参考書 辞書が必要である。ポ日のどの辞書でもかまわないが、これから購入される場合は、動詞の活用を掲載する次の辞書を推薦する：『現代ポルトガル語辞典』池上岑夫他編、白水社。</p> <p>注意事項 語学の学習は積み重ねの結果であるため、次のステップに進むには既に習ったことの復習が不可欠である。</p>
ポルトガル語 Level 2b	水戸博之	木(4)	20	<p>本講義の目的およびねらい</p> <p>本授業は、既に何らかの方法でポルトガル語の基礎を身に付けた人、あるいは学習歴のある人を対象にしている。今年度は、日本語を母語にする教員が担当するので、基礎文法を下記の教科書を用い、前期の内容を復習しつつ、「接続法」へと進んでいく。</p> <p>基礎文法の学習を一通り完了することがこの授業の目的である。</p> <p>履修条件関連する科目</p> <p>「ポルトガル語 Level 1a・b」の少なくともいずれかを履修していることがのぞましい。または、それに準ずるポルトガル語の知識を有すること。後期からの履修も可能であるがある程度文法を学んでいることが必要である。</p> <p>授業内容 授業は前期に引き続き、次の二つの要素から構成することを考えている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 指定教科書による基礎文法の学習。 2) 日本国内で見出されるポルトガル語（掲示物、新聞、放送など）を扱う。 <p>指定の教科書の第40課から最後までを扱う。</p> <p>本授業では、様々な学習歴の受講者が集まることが予想されるが、できるだけ第39課までをあらかじめ一読しておいてほしい。</p> <p>必要に応じて、前の課に戻り既習事項の復習を行う。</p> <p>母語話者の協力が得られる場合には、演習に力を入れたい。</p> <p>以下、各課の文法事項を掲載する。</p> <p>第40課 人称不定詞について</p> <p>第41課 最上級について：形容詞、副詞</p> <p>第42課 過去未来の2種類の用法について・第1の用法</p> <p>第43課 過去未来の2種類の用法について・第2の用法、受動態の作り方</p> <p>第44課 接続法について、接続法未来</p> <p>第45課 代名詞 isto, isso, aquilo について</p> <p>第46課 条件文における接続法過去</p> <p>第47課 命令文の動詞について</p> <p>第48課 2つの条件節：接続法未来と接続法過去</p> <p>第49・50課 接続法現在の用法</p> <p>第51課 接続法と不定詞の関係</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授 業 内 容
ポルトガル語 Level 2b	水戸博之	木(4)	20	<p>第52課 接続法の用法：特殊な主節 第53課 分詞構文 第54課 接続法の複合時制について 第55課 接続法における時制の一致 成績評価の方法 出席。課題への取り組み等。 教科書 河野彰『CDブックNHKブラジル・ポルトガル語入門』NHK出版2001年。 参考書 辞書が必要である。これから購入される場合は次のものを推薦する：『現代ポルトガル語辞典』池上岑夫他編、白水社。 注意事項 教科書は途中から扱うが、第39課までの部分は既習事項を復習し整理するために、よく編集されているので、十分に活用してほしい。</p>
ラテン語 Level 1b	水戸博之	金(2)	20	<p>本講義の目的およびねらい 前期に引き続き、「ケンブリッジ・ラテン・コース」の教材を読み進めます。ラテン語を現代語のように学ぶ、という姿勢で続けましょう。教材は一般的なローマ文化を紹介する内容ですが、多様な分野・専攻の受講者に対応しうる内容であると思います。初級レベルの後半ですが、文系理系を問わず、単に一つの語学を学ぶのみならず学問の最も基本的部分に触れる機会になれば幸いです。 履修条件関連する科目 自由に参加してください。有川貫太郎先生の古典ギリシア語Level1（木曜1時限）。やはりギリシア語とラテン語二つそろって教養教育の「完成」です。 授業内容 前期からの継続。教科書のユニット1の後半では、食事、剣闘士、公衆浴場、詩人たち、選挙、と市民生活のいろいろな面が題材になっています。そしてヴェスヴィオス山の噴火……紀元79年のローマ社会にタイムスリップしたつもりで、ポンペイ人になってラテン語を話しましょう。順調に行くようなら、ユニット2へと進みます。 今年も、水戸（スペイン語・ポルトガル語学）が担当します。 中世や近世のラテン語に関心のある方も歓迎します。 前期と同様、時間のはじめにローマやグレゴリオ聖歌などのビデオを数分鑑賞し、皆さんそろったところで、ラテン語名句MEMORANDAの解説、それからおもむろに教科書に入ります。ある程度慣れてきますと、基本的な文法事項を押さえてあれば、かなりの部分物語は、独力で読むことができます。 16年度後期は、受講生が主体となって、当番を決めて訳読の発表をしました。とてもよい勉強になったと思います。 教科書を1冊終わることを目標にしますが、授業の形式と内容はできるだけ受講者の希望を反映したものにしたいと思います。 セネカの言葉です。 Homines dum docent, discunt. 人びとは教えているあいだに学ぶ。 成績評価の方法 出席とレポートを総合して評価します。 教科書 CAMBRIDGE LATIN COURSE UNIT 1(North American Edition) 参考書 適宜紹介します。 昨年度までに紹介したもののいくつかについてはコミュニケーションボードを参照してください。 注意事項 基本的には2002年度の有川先生の授業と同内容ですが、担当者が水戸になります。</p>
オランダ語 Level 1	小坂光一	水(2)	20	<p>本講義の目的およびねらい なるべく多くの言語に触れていただくことを目的としている。 履修条件関連する科目 もっぱら口頭練習をするので、毎回出席できることが履修の条件となる。 授業内容 オランダ語は英語とドイツ語の中間のような言語である。従って、英語かドイツ語のできる人にとっては極めて学びやすい言語である。両方知っていればなお学びやすい。 すなわち、語彙に関して言えば英語とかなり似ている。フランス語的な単語も散見される。文法の面ではドイツ語とよく似ている。ほとんど同じと言っていいくらいである。ただし、発音は独特である。だから、一番むずかしい</p>

授業科目	担当教員	曜日・ 時限	定員	授 業 内 容
オランダ語 Level 1	小坂 光 一	水(2)	20	<p>のは発音かもしれない。 この授業ではオランダ語会話入門とでもいうべき授業をし、オランダ語会話への導入を図りたい。 授業の進行は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 単語ごとの練習 2. センテンスごとの練習（初めはコンマごとに区切って練習する） 3. スピードをある程度守った練習 4. 文法事項を扱った練習 5. プリントを使った、かなり自然な会話テキストの練習 6. 期末近くになって、なお時間に余裕がある場合は、プリントを使って総合練習をする。 <p>予習は特に必要としない。ほとんどを授業中に解決するという心構えを持って欲しい。 成績評価の方法 平常の授業での貢献度・平常点で評価する。 教科書 『エクスプレスオランダ語』（白水社）及びプリント教材 参考書 オランダ語辞典（講談社）授業のためには必要ありません。 注意事項 授業に来たり来なかったりする人、授業中にただ聞いているだけの人は絶対にお断りします。</p>
イタリア語 Level 1b	C. Galisch	水(4)	20	<p>本講義の目的およびねらい イタリア語の基礎を習得し、イタリア語の文章を読み書き、イタリア語を話せるようにすること。 履修条件関連する科目 前期の授業（イタリア語 Level 1a）を履修することが望ましい。 授業内容 前期授業よりやや高度な内容のイタリア語文法の基礎事項、特に動詞の変化を中心に解説しつつ、文章を読んだり書いたりすることを学習させる。会話の練習では現代イタリア語でよく使う表現を学び、イタリア語による表現能力の習得に重点を置く。 成績評価の方法 レポート（イタリア語による文章作成）の採点による。 教科書 指定しない。会話の教材のみ必要に応じてプリントを配布する。 参考書 自習用に、自分に合ったイタリア語入門テキストとイタリア語辞書を選び入手すること。</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授 業 内 容
英語文化セミナー	吉村正和	月(3)	20	<p>本講義の目的およびねらい 翻訳の理論と実際について学習しながら、言語文化が私たちの知的世界に拓いている可能性を模索する。他人から与えられるものだけをそのままこなしていくという受動的な学習態度ではなく、自らの意思で自らの課題を設定して積極的に取り組むことが必要である。</p> <p>履修条件関連する科目 英語の上級能力、少なくとも中級以上の能力を必要とする。</p> <p>授業内容 翻訳の理論と実際について、それぞれの課題に関するプリント教材を使用して学習する。</p> <p>翻訳理論については、S・バスネットの『翻訳研究』を使用する。翻訳の実際については、今年度は、19世紀末のイギリス社会精神史に関する英語論文を使用する。イギリス社会精神史の内容としては、一般社会史から科学的自然主義・神智学・心靈主義・精神分析などが含まれる予定である。</p> <p>参考文献としては、ジョルジュ・ムーナン『翻訳の理論』（伊藤晃ほか訳、朝日出版社）、ユージン・ナイダ『翻訳、理論と実際』（沢登春仁、升川潔訳、研究社）、柳父章『翻訳語成立事情』（岩波新書）、芳賀徹編『翻訳と日本文化』（山川出版社）、井筒俊彦『意識と本質』（岩波文庫）などがあり、適宜紹介しながら授業を進める。</p> <p>テキストを精読・理解し、それを平易な日本語に翻訳するには高度の英語能力だけではなく、広範囲な言語文化に関する知識が必要となることを、実際の訓練の過程で認識する。</p> <p>3～4回の授業で1回程度、小テストを実施して、内容が理解されているかどうかを確認する。受講者は、毎回少なくとも2～3時間の予習が必要となるので、受講を申請する前に自分がその条件に当てはまるかどうかを確認することが望ましい。</p> <p>成績評価の方法 授業中の発表・平常点（40%）、小テスト（60%）。</p> <p>教科書 S. Bassenett, Translation Studies (print)</p> <p>参考書 授業内容の欄参照。</p> <p>注意事項 翻訳について強い関心をもつ学生の受講が望ましい（長時間にわたる予習が必要となるので、その覚悟がない学生は受講できない）。</p>
英語文化セミナー	長畑明利	水(3)	20	<p>本講義の目的およびねらい 英和翻訳の練習を通して、英語と日本語それぞれの言語についての理解を深める。一つの言語で書かれた文章を別の言語の文章に置き換えることの意味について考える。理解できる単語の数を増やす。</p> <p>履修条件関連する科目 学習への意欲と知的社会的関心。英語リーディングの単位を最低2単位取得していることが望ましい（学部生の場合）。</p> <p>授業内容 英和翻訳のワークショップ。授業のあらまはは次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者は毎週与えられた課題（250ワード程度の英文2種類を予定）を日本語に翻訳する。それぞれの課題文の担当者をあらかじめ決めておき、担当者は自分の訳文を授業用の掲示板に投稿する。受講者はこれをダウンロードしたうえで授業に出席する。授業では、課題文についての解説の後、担当者の訳文について検討する（受講者全員が担当者の訳文についてコメントを求められる）。基本的には緻密な英文解釈の授業であり、文法事項、構文、文化的背景等に留意しつつ課題に取り組むことになるが、実技を通して、翻訳行為を客観的に眺めることも試みる。 ・課題文は小説の抜粋、新聞・雑誌のコラム、論説文、映画のスク립ト、詩などを予定しているが、今回は文学作品を少し多めにし、特に学期の後半は詩の翻訳を試みる予定。（ただし、あまり難解な詩は扱わない。） ・ときおり単語テストなどを行う予定。 ・将来英語を用いて仕事をすることを考えている者、留学希望者、大学院進学を考えている者には有益な授業となろう。 <p>成績評価の方法 学習への意欲、課題への取り組み、授業時のコメント、小テスト、期末試験などにより、総合的に判断する予定。</p> <p>教科書 オンラインの文章、またはプリントを使用する。</p> <p>参考書 河野一郎『翻訳のおきて』（DHC）、村上春樹・柴田元幸『翻訳夜話』（文春新書）、中村保男『英和翻訳の原理・技法』（日外アソシエーツ）など。その他必要があれば、授業中に、またHPでも紹介する予定。</p> <p>注意事項 実力を付けたい人のためのクラス。欠席3回で単位放棄とみなす。私語、ケータイ、睡眠禁止。授業のHPで最新の情報を確認すること。</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授業内容
英語 言語文化 セミナー	福田 真人	木(5)	20	<p>本講義の目的およびねらい 医学の歴史に関するセミナーを行う。英語で文献を読み、考え、書く訓練を行う。英語を日常生活から学問的使用に耐えられるまでのレベルに上げることを究極的目的とする。最初から特に英語を自在に操れる必要はない。むしろ、読み、考えて、自分の考え方を相手に正確に伝える事の訓練を積む方が遥かに重要である。ある事項に関して、自分の理解、認識を相手に伝え、自分の考え方、ある事項に関する批判的意見（反対するということではなく、物事を客観的に判断し、それを元に会話すること）を述べる訓練を行う。</p> <p>授業内容 医学の歴史をたどるセミナーを行う。事項には以下のようなことが考えらる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Greek and Roman Medicine 3. Medieval Age and Monasteries 4. Phlebotomy and Uroscopy 5. Plague and influenza 6. Anatomy and Surgery 7. Tuberculosis: Historical Surver 8. Syphilis and STD: First Syphils Examination in Japan in 1868. 9. Rewiew and Summary <p>成績評価の方法 訳出、小テスト、レポート、出席点</p> <p>教科書 None. Students are asked to take photocopy of the materials indicated by the tutor on the first class meeting.</p> <p>参考書 英英辞書の購入を勧めます。Concise Oxford Dictionary は、まだ、やや難しいかも知れませんが、試してみることをお勧めします。あるいは、Oxford Dictionary of English もいいかも知れません。Coubild もいいでしょうか。Longman も。</p> <p>注意事項 非常に広範囲に渡る事項を読み取り、会話を交わす訓練をするので、挑戦的参加が求められます。また、自分で調べ考えることも多いので、聴き、話し、読み、書くという4技能の限界への挑戦が求められます。</p>
英語 言語表現 セミナー	滝沢 直宏	月(3)	20	<p>本講義の目的およびねらい 言語文化サテライト・ラボ（言語文化部棟 LL31番教室）を使い、受講生各自が選んだ英文の多読と精読を平行的に行いつつ、電子化された大規模な英語の資料（1億語から成る現代英国英語のコーパス）を利用して、英語表現力を向上させることを目的とする。その際、文法やコロケーション（語と語の慣習的結合）に十分な注意を促す。</p> <p>授業内容 各自、自らが選んだ英語の雑誌・新聞などを定期的に購読し、「自分では辞書を引かなくても意味が分かるが、なかなか自分から使うことはできない」表現で、なお且つ「真似てみたいと思うような」表現を数多く収集し、それを基にして、表現力の向上を図る。</p> <p>まず、初回において、</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) どの程度の難易度の英文を選択すべきか、どのような雑誌・新聞などを読むべきかに関して解説する。 (2) 利用すべき英英辞典、英和辞典の紹介 (3) コーパスとは「電子化された大規模な英語の資料」である。 名古屋大学では1億語から成る現代英国英語のコーパス（British National Corpus）を利用できる環境が整っているので、そのコーパスの利用方法に関して簡単に紹介する。 （但し、マニュアル（英文）がオンラインで読めるようになっているので、詳細は各自で学ぶことになる。） (4) 英語の表現力を伸ばすにあたって、どのような英語表現に注目すべきかを具体的に解説する。 <p>以上のことを前提にして、</p> <p>第3週目以降、毎週、各自が選んだ表現を事前に電子メールで提出して貰う。授業では、その表現のどこが有益であるのかを何人かに発表してもらい、皆で議論する。また、そのようにして収集された有益な表現が実際にどのように使われているかを、コーパスを利用して調査し、表現力の向上を図る。その際、コロケーション（語と語の慣習的結合）にも十分な注意を促す。</p> <p>成績評価の方法 宿題（第3週以降、毎週）、レポート（学期末）</p> <p>教科書 各自、購読する雑誌、新聞などを入手すること（WWWからコピーしても構わない）。詳細は初回に指示する。</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授 業 内 容
英 語 表 現 セ ミ ナ ー	滝 沢 直 宏	月(3)	20	注意事項 英英辞典を必ず一冊は用意し、頻繁に引くこと。コンピュータを多用する。宿題は、電子メールで提出するので、電子メールが使えない人は受講不可。
英 語 表 現 セ ミ ナ ー	長 畑 明 利	金(2)	20	<p>本講義の目的およびねらい 英文を書く力を養う。英語での口頭発表に慣れる。英語でのディスカッションに慣れる。ジャーナリズムの英語に慣れる。様々なトピックについて、自分なりの意見を培う。</p> <p>履修条件関連する科目 学習への意欲と知的社会的関心。辞書を引いて英文が書けること。辞書を引いて『ニューズウィーク』程度の英文が読めること。英語リーディングの単位をすでに2単位取得していることが望ましい(学部生の場合)。</p> <p>授業内容 課題英作文とプレゼンテーションのワークショップ。授業はすべて英語で行う。受講者は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週指定された英文エッセイ(『ニューズウィーク』、『ニューヨークタイムズ』など)を読み、それについてレポート用紙1枚程度のエッセイを書く。これを授業後提出し、教員が英文をチェックして後日返却する。受講者は返却されたエッセイを読み直し、英文の誤りを訂正したうえで、清書したものを電子メールで教員に送る。受講者の英文一覧は授業用のHPに掲載される。 ・授業ではまず、課題の英文エッセイ(『ニューズウィーク』、『ニューヨークタイムズ』など)の内容確認、およびそこで採り上げられているトピックについての英語によるディスカッションを行う。 ・その後、二人の発表者によるプレゼンテーションを行う。発表者はあらかじめ決めておき、原稿を受講者の人数分(プラス教官およびTA用)コピーして発表時に配布する。発表は原稿を読んでもよいこととする。発表後、質疑応答をする。発表及び質疑応答で合計一人10分程度の予定。質問あるいはコメントをした学生には1回につきボーナス点を与える。 ・授業後、参加者は授業用の掲示板に発表についての短いコメントを投稿する。 ・課題文は受講者の希望に従い選択するが、希望がない場合は、教員あるいはTAを選ぶ。 ・日本人学生で将来教職に就くことを考えている者、留学希望者、大学院進学を考えている者等には特に有益な授業となろう。検定試験の成績を上げるにも有益。 <p>成績評価の方法 毎回の作文(4割)、発表(2割)、掲示板(1割)、期末試験(3割)、発言回数(ボーナス)の予定。作文でインターネット等からの切り張りが見出された場合は、その時点で成績不可。</p> <p>教科書 『ニューズウィーク』、『ニューヨークタイムズ』など。オンラインで読むか、プリントを用いる。</p> <p>参考書 ジェイムズ・H・M・ウェブ『日本人に共通する英語のミス121』(ジャパン・タイムズ)、『アエラ』など。必要があれば、授業中に、またHPでも紹介する予定。</p> <p>注意事項 実力を付けたい人のためのクラス。欠席3回で単位放棄とみなす。私語、ケータイ、睡眠禁止。授業のHPで最新の情報を確認すること。</p>
英 語 表 現 セ ミ ナ ー	杉 浦 正 利	火(3)	20	<p>本講義の目的およびねらい 英語でわかりやすい文章が書けるように文章構成法を習得することを目的とする。和文英訳ではなく、自分の意見を、事実に基づき合理的に英語で論述することができるようにする。</p> <p>インターネットを使った英語での情報発信や、将来、専門論文を英語で書く時に、指針となる英語文章構成法の根本原理を学んでもらいたい。</p> <p>授業内容 五百語から千語程度の「エッセー」(小論文)を実際に書くことを通して、いかにわかりやすい文章を書くかということ学ぶ。エッセーはコンピューターを使って書き、インターネット上で閲覧できるようにする。いわゆるホームページの作成に使われるHTMLを使い、英語の文章に構造を持たせる方法を学ぶ。</p> <p>具体的には以下の項目を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 文章を書くとはどういうことか 2) 構造と言語表現化 3) パラグラフの構造

授業科目	担当教員	曜日・ 時限	定員	授 業 内 容
英 語 表 現 セ ミ ナ ー	杉 浦 正 利	火(3)	20	<p>4) 論文(エッセー)の構造 5) 文章構成法の基本パターン 6) 構造をあらわす表現 7) HTMLと文章構造 8) アウトラインの書き方 9) 文章化の方法 10) 推敲のポイント</p> <p>毎回、授業の初めに英語論文でよく使われる表現の小テストを行う。各授業では、学習項目の解説と実際の英語文章作成演習を行う。 この授業を受けることで、だれでもわかりやすい文章を書くコツがわかるようになる。また、将来、英語で専門論文を書く人にとってもその基礎を学ぶことができる。</p> <p>成績評価の方法 出席、平常点、期末試験の三つの観点より総合的に評価する。</p> <p>教科書 藤本滋之『やさしく書ける英語論文』松柏社 参考書 名古屋大学言語文化部『インターネットと英語学習』開文社出版 注意事項 コンピューターを使うが必要な操作は授業中に教えるので、コンピューターの操作に慣れていなくても心配ない。</p>